

報徳小 学校だより ほうとくの風

令和7年度 第2号
小田原市立報徳小学校
校長 瀬戸 由里子



学校HP 二次元コード

《学校教育目標》 心豊かに 自分らしく生き抜く 子どもの育成

「関わる力」ひと・こと・もの との関わりをとおして

6月5日（木）、今年も桜井稲作組合、栢山田植え歌保存会、かながわ西湘農業協同組合、小田原市生涯学習課の皆様のご協力のもと、4年生による捨て苗田での田植えが行われました。

この捨て苗田は、二宮金次郎が17歳の夏の初め、道ばたに捨ててあった稲の苗をもったいないと思い、荒れた沼地に植えておいたところ、秋には一俵（60kg）もの米がとれたという場所です。金次郎にとってこの経験は、「どんなことでも小さいことをおこたらず、こつこつと積み重ねていけば、大きなことを成し遂げることができる」という教訓となり、「積小為大」の教えにつながりました。

その他、学校内にある報徳ランドでは、今年度も畑ボランティアの方々のご協力をいただきながら、井上さんのご指導のもと行われる田んぼでの稲作や、すくすく畑での野菜の栽培、また、金次郎が灯り取りの原料となる油を取るために育てたアブラナの栽培など、様々な栽培活動が展開されています。これらの活動は、学校だけでできることではありません。保護者や地域の方々、関係機関の方々のお力で支えられ、多くの「ひと」との関わりで成り立っています。

田植えでは、子どもたち一人ひとりが手に苗を持ち、泥の中に手足を浸し、匂いや手触りを感じながら「つめたーい！」「泥が気持ちいい！」と歓声を上げていました。また、菜種の収穫では、種の小ささや茎の硬さに驚きの声をあげていました。まさに様々な「もの」や「こと」との出会いが子どもたちの五感を刺激し、豊かな経験として刻み込まれていくのだと思います。

捨て苗田では、秋の収穫までは稲作組合の方々が水田の管理をしてくださいます。水田は尊徳記念館のすぐそばにありますので、田園風景の中を散歩しながら、成長していく稲の様子をぜひ見に行ってみてください。



6年生 修学旅行

5月21・22日に6年生が日光修学旅行に行ってきました。お天気に恵まれ、充実した2日間を過ごすことができました。1日目は足尾銅山や華厳の滝、2日目は東照宮や大猷院などを見学しました。旅行中の様々な場面で、友達となかよく協力し、楽しく過ごす子どもたちの姿を見ることができました。

また、さわやかなあいさつやけじめをつけた話の聞き方など、これまでの学びの中で身に着けた力を発揮することができていたと思います。

報徳小学校をまとめていく6年生がこれから、どんな成長を遂げるのか、ますます楽しみです。



5年生 宿泊学習

5月27・28日に5年生が足柄ふれあいの村に宿泊学習に行ってきました。今年はネイチャーハントや火おこし体験、夜はキャンプファイヤーを行い、ゆとりあるスケジュールの中、豊かな自然にふれ、仲間との絆を深めることができた充実した2日間でした。特に、キャンプファイヤーでは、歌やゲームなど、大いに盛り上がりました。最後はみんなで心静かに空を見上げ、自然の音に耳を傾け日常ではなかなか体験できない時間を過ごすことができました。6年生同様、5年生も、最上級生を支える縁の下の力持ちとして、これからの活躍が楽しみになった2日間でした。



水泳学習について



今年度も、報徳小学校では小田原市による民間施設を活用した水泳指導を行っています。場所はスポーツプラザハウトクです。学年ごとに泳力別のグループになり、指導はスポーツプラザハウトクのコーチが行い、教員はプールサイドなどから見守っています。また、移動は施設のバスが送り迎えをしてくれています。本校では2年目の取組となり子どもたちも慣れてきた様子です。来週はいよいよ1年生の指導が始まります。保護者の皆様、持ち物等の準備にご協力いただきありがとうございました。

編集後記：関東地方では昨年より11日早く梅雨入りをしました。「地球沸騰化」という言葉が聞かれるようになった昨今、この時期からは豪雨などに気をつけるだけでなく、熱中症の予防が不可欠です。今年も暑い夏がやってくるようですが、登下校の見守りや各種ボランティアなど、子どもたちのため多くの方々にご協力いただいていること感謝申し上げます。子どもたちはもちろん、保護者や地域の皆様も、体調に気をつけてお過ごしください。